

日本実験動物医学会 2016-2017 年度総会



2016年9月8日(木) 11:30~12:30
日本大学
(第159回日本獣医学会学術集会)

総会次第

開 会

会長あいさつ

授与式

2016-2017年度(第13回)前島賞授与式

2015-2016年度 実験動物医学専門医認定式

議長選出

議 事

[1] 2015-2016年度事業報告 (8/1~7/31)

[2] 2015-2016年度決算報告

[3] 2016-2017年度事業計画 (8/1~7/31)

[4] 2016-2017年度予算案

[5] 年会費の改定について

[6] 韓国獣医系大学実験動物(医)学担当者とのジョイントシンポジウムの開催について

[7] 来年の学会とエクスカージョンについて

[8] その他

報告事項

閉 会

授与式

◎2016-2017 年度（第 13 回）前島賞授与式

◎2015-2016 年度 実験動物医学専門医認定式
新実験動物医学専門医（敬称略）

認定番号131	大沼 俊名
認定番号132	井上 貴史
認定番号133	倉田 昌明
認定番号134	山中 仁木

【 議 事 】

【 1 】 2015-2016 年度事業報告 (8/1～7/31)

1. 2015-2016 年度総会の開催

日時：2015 年 9 月 9 日（水）11：00～12：00

場所：北里大学 第 158 回日本獣医学会学術集会

議事：2015-2016 年度事業報告 (8/1-7/31) / 2015-2016 年度決算報告 / 2016-2017 年度事業計画案 (8/1-7/31) / 2016-2017 年度予算案 / 来年の学会とエクスカージョンについて / 報告事項

2. 理事会の開催

(1) 第 1 回理事会

日時：2015 年 9 月 7 日（月）15：00～17：00

場所：北里大学 第 158 回日本獣医学会学術集会

出席者：安居院、池、角田、佐神、佐々木、下田、古市、三好、森松(以上理事)、黒澤(以上監事)

欠席者：橋本(監事)

(2) 第 2 回理事会

日時：2016 年 5 月 17 日（火）10：00～12：00

場所：ミューザ川崎シンフォニーホール（会議室 2） 第 63 回日本実験動物学会総会

出席者：安居院、池、角田、佐神、下田、古市、三好、森松(以上理事)、黒澤(監事)

欠席者：佐々木(理事)、橋本(監事)

3. 学術集会委員会

委員長：池 郁生(理研)

委員：佐加良英治(副委員長、兵庫医科大)、北村 浩(酪農学園大)、小山公成(アステラスリサーチテクノロジー)、鈴木穂高(国立医薬品食品衛生研)、高橋英機(理研)、滝本一広(感染研)、中村紳一朗(滋賀医科大)

(1) 第 158 回日本獣医学会学術集会（北里大学）開催期間中、平成 27 年 9 月 7 日（月）13:00～14:00 に学術集会委員会を開催した。

出席者：池、北村、小山、鈴木、高橋、中村

議題：今後の実験動物医学シンポジウムについて

(2) 第 158 回日本獣医学会学術集会（北里大学）開催期間中、平成 27 年 9 月 9 日（水）12:00～13:00 に委員長が日本獣医学会プログラム委員会に出席した。

(3) 前回委員会から今回委員会までの間に ML で第 63 回日本実験動物学会総会ならびに第 159 回日本獣医学会学術集会における JALAM シンポジウム内容等について検討し、準備を進めた。

(4) 下記の通り、教育講演・シンポジウムを企画・開催した。

第158回日本獣医学会学術集会

JALAM シンポジウム 「免疫不全動物などストレスに弱い状態の実験動物の維持管理」

日時：平成27年9月9日（水）9:00～11:00

場所：北里大学獣医学部

第63回日本実験動物学会総会

日本実験動物医学会シンポジウム 「無脊椎動物をモデルとして用いた研究の展開」

日時：平成28年5月17日（水）13:00～14:30

場所：ミューザ川崎シンフォニーホール

4. 情報・編集委員会

委員長：三好一郎（東北大）

委員：山添裕之（副委員長、住友化学）、綾部信哉（理研）、伊藤麻里子（名大）、大沼健太（佐藤製薬）、森松正美（北大）、和穎 岳（ヤクルト）

(1) JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」No. 45（2015.8 綾部担当）およびNo. 46（2016.5 山添担当）を編集し、本学会ホームページ（HP）に掲載した。

(2) 本学会一般公開HPをjalam.jpドメインで新規開設し、トップページは外注で、それ以外は委員会で作成するとともに、随時、内容を更新した。

(3) JALAM-ML(jalam@umin.ac.jp)および会員HP（<http://jalam.jp/htdocs/>）を管理運営した。

(4) 第158回日本獣医学会学術集会（北里大学）開催期間中、平成27年9月7日14:00～15:00にJALAM情報・編集委員会を開催した。

出席者：

三好、山添、綾部、伊藤、大沼、森松

議事：

1. 日本実験動物医学会メーリングリスト(Jalam ML)の運用について：会員間の情報共有ならびに議論の場としてはセキュリティなどの観点から会員HPの方が相応しいことから、近々MLを廃止して会員制HPに統一することが提案された。
2. 会員HPの活用について：会員HPを活用してJALAMの活性化に貢献する。
3. HPの改訂：一般公開HPを<<http://plaza.umin.ac.jp/JALAM/>>から<<https://jalam.jp/htdocs/>>に移行し、トップページを改訂する。
4. JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」の編集：No.46(2016.5):山添, No.47(2016.8):和穎

5. 研修委員会

委員長：佐神文郎（ボゾリサーチセンター）

委員：木村 透（副委員長、山口大）、安居院高志（北大）、林元展人（実中研）、高木久宜（日本エスエルシー）、首藤康文（残農研）、和田 聡（アステラスリサーチテクノロジー）、今野兼次郎（京大）、阪川隆司（ボゾリサーチセンター）、武井信貴子（イナリサーチ）、花井幸次（大日本住友製薬）

第158回日本獣医学会に合わせ、平成27年9月4、5日にウェットハンド研修会「III. サル類の獣医学的管理」をハムリー本社研究所（古河市）で実施した。参加者は12名。また、第1回委員会を9月9日（水）12:00～13:00に北里大学獣医学部で開催した。

第63回日本実験動物学会総会に合わせ、平成28年5月15、16日にウェットハンド研修会「I. げっ歯類及びウサギの獣医学的管理」を公財）実験動物中央研究所（川崎市）で共催した。参加者は40名。また、第2回委員会を5月16日（月）17:30～19:30に公財）実験動物中央研究所（川崎市）で開催した。

6. 実験動物学教育委員会

委員長：古市達哉（岩手大）

委員：横須賀 誠（副委員長、日獣大）、安居院高志（北大）、浅野 淳（鹿児島大）、猪股智夫（麻布大）、大杉剛生（酪農学園大）、岡田利也（大阪府大）、角田 茂（東大）、木村

透（山口大）、久和 茂（東大）、佐々木宣哉（北里大）、佐藤雪太（日大）、竹内崇師（鳥取大）、田中あかね（東京農工大）、富岡幸子（鳥取大学）、二上英樹（岐阜大）、橋本 統（北里大）、森松正美（北大）、黒澤 努（鹿児島大）

- (1) 実験動物学教育委員会メーリングリストを利用して、講義・実習に関する意見交換を行った。
- (2) 第158回日本獣医学会学術集会（北里大学）において委員会を開催した（平成27年9月7日13:00～14:00）。講義、実習、および獣医学モデル・コア・カリキュラム等について意見交換を行った。

7. 実験動物法規等検討委員会

委員長：下田耕治（慶應大）

委員：大沢一貴（副委員長、長崎大）、笠井憲雪（東北大）、佐々木宣哉（北里大、平成26年度まで）、二上英樹（岐阜大、平成27年度より）、武井信貴子（株イナリサーチ）、横山政幸（武田薬品工業株）

158回日本獣医学会学術集会開催時、平成27年9月7日（月）14:00～15:00に委員会を開催した。飼養保管基準や基本指針の解説に獣医学的管理を明記することの重要性を再確認した。CIOMS、OECD、ISO、OIEなどの国際的な機関・機構が作成している実験動物の取扱文書には獣医学的ケアの重要性が明記されているので、これらの文書を手に入れ、委員に配布することにより国際的な現状について理解を深めることとした。

メールによる委員会において、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」の解説書に関する要望書（案）を提案し、理事会へ報告した。理事会での審議を経て承認された要望書を実験動物飼養保管等基準解説書研究会へメールにて送付した。メールは同研究会浦野 徹委員長及び、CCにて専門医の執筆者（大和田先生、三好先生、八神先生）へ送信した。

「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」の解説書に関する要望書」（別紙）

8. 前島賞選考委員会

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：伊藤麻里子（副委員長、名大）、大杉剛生（酪農学園大）、田崎隆史（金沢医大）、土佐紀子（北大）、橋本憲佳（金沢大）、林元展人（実中研）、横須賀 誠（日獣大）、王 振吉（生理研）

2015-2016年度前島賞候補者の選考を平成27年9月8日に行った。

その結果、下記の佐々木隼人会員を候補者としてふさわしいと結論し、安居院会長に報告した。なお、その後の総会で、同会員が表彰された。

候補者：佐々木隼人会員（北里大学獣医学部実験動物学研究室）

研究課題：マウス第2染色体上の2つの腎症抵抗性領域はそれぞれ尿細管間質障害抑制とポドサイト障害抑制に寄与している

[2] 2015-2016年度決算報告（8/1～7/31）（別紙参照）

一般会計決算報告について

会費納入状況について

[3] 2016-2017年度事業計画（8/1～7/31）

1. 総会

2016-2017年度総会を第159回日本獣医学会会期中に行う。

2. 学術集会委員会

- (1) 第159回日本獣医学会学術集会（日本大学）開催期間中、委員会を1回開催する（平成28年9月6日）。
- (2) 第159回日本獣医学会学術集会（日本大学）開催期間中、委員長が日本獣医学会プログラム委員会に出席する（平成28年9月8日）。
- (3) 下記の教育講演・シンポジウムを企画・開催する。

- A) 第 159 回日本獣医学会学術集会 (日本大学) において JALAM シンポジウム「実験動物を用いた粘膜免疫研究~基礎と応用~」を開催する(平成 28 年 9 月 7 日)。
- B) 第 64 回日本実験動物学会 (郡山市) における JALAM シンポジウムを企画する。
- C) 第 160 回日本獣医学会 (鹿児島市) における JALAM シンポジウムを企画する。

3. 情報・編集委員会

- (1) JALAM NEWS LETTER 「実験動物医学」 No.47 (2016.8 和穎担当) および No.48 (2017.4) を編集し、本学会ホームページ (HP) に掲載する予定。
- (2) 本学会 HP を改訂し、その内容を随時更新する。
- (3) 会員 HP (<http://jalam.jp/htdocs/>) を管理運営する。
- (4) 第 159 回日本獣医学会学術集会 (日本大学) 開催期間中、平成 28 年 9 月 6 日 (火) 14:00~15:00 に委員会開催予定。

4. 研修委員会

本年 9 月 3, 4 日に「I. げっ歯類およびウサギの獣医学的管理」を公財) 実験動物中央研究所 (川崎市) で共催する。159 回日本獣医学会学術集会開催時 (9 月 5 日 (月) 16:00~17:00) に委員会を開催し、ウェットハンド研修会のコアカリキュラム検討、同研修会の参加費等運営について審議。また、2017 年 5 月の第 64 回実験動物学会に合わせウェットハンド研修会「II. イヌ及びブタの獣医学的管理」を共催予定である。

5. 実験動物学教育委員会

- (1) 委員会を 1 回 (平成 28 年 9 月 6 日) 開催する。
- (2) 実験動物学教育委員会のメーリングリストを通して、意見・情報の交換を行う。

6. 実験動物法規等検討委員会

- (1) 第 159 回日本獣医学会学術集会 (日本大学) 開催期間中、平成 28 年 9 月 6 日 (火) 14:00~15:00 に委員会開催予定。
- (2) 動物愛護管理法の改正に関する情報を収集する。
- (3) 動物愛護管理法関連法規等について、理事会から諮問された案件について検討し、その結果を理事会へ報告する。

7. 前島賞選考委員会

第 159 回日本獣医学会学術集会 (日本大学) 開催期間中、平成 28 年 9 月 7 日 (水) 17:00~18:00 に委員会開催予定。

[4] 2016-2017 年度 (8/1~7/31) 予算 (別紙参照)

- 1. 一般予算について

[5] 年会費の改定について

[6] 韓国獣医系大学実験動物 (医) 学担当者とのジョイントシンポジウムの開催について

第 160 回日本獣医学会開催時に理事会及び実験動物学教育委員会が担当し開催する予定 (担当者: 安居院高志 (会長)、古市達哉 (実験動物学教育委員会委員長))。

[7] 来年の学会とエクスカーションについて

第 160 回日本獣医学会学術集会が鹿児島大学において 9 月に開催される。これに合わせてエクスカーション (幹事 瀬戸山健太郎 会員 (鹿児島大学)) を実施する。

[8] その他

【 報告事項 】

1. 2015-2016 年度会員数

日本実験動物医学会 会員数 合計 350 名 (2016 年 7 月 31 日現在)

2. 2015-2016 年度入退者数

入会 16 名

退会 11 名 (会費滞納による退会 0 名)

日本実験動物医学会 2014-2015～2016-2017 年度役員会および委員会

理事・監事

会長 (渉外担当理事兼任)	安居院高志	(北海道大学)
副会長	三好 一郎	(東北大学)
理事 (会計・事務局担当)	角田 茂	(東京大学)
理事	池 郁生	(理化学研究所)
理事	古市 達哉	(岩手大学)
理事	佐神 文郎	(ボゾリサーチセンター)
理事	佐々木宣哉	(北里大学)
理事 (庶務担当)	森松 正美	(北海道大学)
理事	下田 耕治	(慶応義塾大学)
監事	黒澤 努	(鹿児島大学)
監事	橋本 道子	(アステラスリサーチテクノロジー)

各種委員会委員長

学術集会委員会	池 郁生	(理化学研究所)
研修委員会	佐神 文郎	(ボゾリサーチセンター)
実験動物学教育委員会	古市 達哉	(岩手大学)
情報・編集委員会	三好 一郎	(東北大学)
前島賞選考委員会	佐々木宣哉	(北里大学)
実験動物法規等検討委員会	下田 耕治	(慶応義塾大学)

平成 28 年 7 月 8 日

実験動物飼養保管等基準解説書研究会

委員長 浦野徹 殿

日本実験動物医学会

会長 安居院高志

「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」
の解説書に関する要望書

要望事項：

「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」の解説書を作成するに当たり、下記事項を明確に記述することを要望いたします。

1. 飼養保管基準の、第 3-1-(1)-イ(健康管理と適切な治療)、第 3-4 (共通感染症)、第 4-1-(1) (麻酔薬、鎮痛薬の投与) などの項目で獣医師、特に実験動物医学専門医の役割を明記する。
2. その他、外部検証の方法や、ケージの大きさ、収容面積等の数値を明記する。

同様の要望は動物愛護管理法の改正時及び動物愛護管理法に係る告示の改正時に、日本実験動物医学会が意見書として環境省宛に提出しましたが、残念ながら全く考慮されませんでした。従いまして、今回は貴研究会の実験動物飼養保管等基準解説書の作成に当たり、再度要望いたします。前回提出した意見書は当学会ホームページに掲載し、広く国民に周知しております。下記の URL からもご覧戴ければ幸いです。

http://plaza.umin.ac.jp/JALAM/ikensho_Jalam2011.htm

獣医師による実験動物の健康管理、苦痛の軽減等は国際的には動物実験の中で極めて重要な位置を占めております。韓国、シンガポールなども含む先進諸国の中で日本だけが、法律、指針等で獣医師の役割が明確化されておらず、CIOMS、OECD、ISO、OIE などの国際的な機関・機構が作成している実験動物の取扱文書にも獣医学的ケアの重要性が明記されているのとは対照的です。また、獣医師の関わりがなくとも動物実験が可能なのは日本だけです。このような状況を続けておきますと、諸外国はもとより国内からも我が国の動物実験に対する批判が高まり、研究者に不利益がもたらされることが危惧されます。一刻も早く国際的なレベルに達するためには基準を再改正すべきですが、最低限、基準の解説書には獣医師、特に実験動物医学専門医の役割を明記すべきと考えます。

以上